

卒前教育のカリキュラム^{*1}

真 島 英 信^{*2}

はじめに

わが国の医科大学数は、昭和44年までは、国立25校、公立8校、私立13校、計46校に過ぎなかったが、昭和56年現在では国立41校（16校増）、公立8校、私立29校（16校増）その他防衛医大の増設があり、合計79校を数える。10年間に33校の増であり、さらに琉球医大（国立）

が開設されたから、10年間に約2倍（43％）に増加したことになる。

医学部入学者数については、昭和44年以前は46校でほぼ毎年3,400名であったものが、昭和54年には75校（山梨、福井、香川、防衛医大を除く）で8,225名となった（表1）。すなわち10年間に2.4倍に急増している。大学数が1.6倍（75/46）になったのに対して、学生数が2.4

表1 昭和54年4月医進入学者数

	国	公	私	計
校数	38	8	29	75
定員	4,150	660	3,040	7,850
入学者数	4,203	684	3,338	8,225
定員オーバー数	53	24	298	375
定員オーバー数（％）	（1.3）	（3.6）	（9.8）	（4.8）
現役	1,500	257	1,240	2,997
現役（％）	（35.7）	（37.6）	（37.1）	（36.4）
一浪	1,296	210	1,035	2,541
一浪（％）	（30.8）	（30.7）	（31.0）	（30.9）
二浪	543	96	560	1,199
二浪（％）	（12.9）	（14.0）	（16.8）	（14.6）
三浪以上	554	64	407	1,025
三浪以上（％）	（13.2）	（9.4）	（12.2）	（12.5）
他学卒業者	293	57	80	430
他学卒業者（％）	（7.0）	（8.3）	（2.4）	（5.3）
外国人学生	13	0	18*	31
外国人学生（％）	（0.3）	（0.0）	（0.6）	（0.4）
国費沖縄留学生	3	0	0	3
検定合格者	1	0	0	1

* うち2人は、他学部卒業者と同一人

^{*1} Curriculum of Medical School in Japan.

^{*2} MASHIMA, Hidenobu 順天堂大学医学部生理学教室

倍にもなるのは、各大学の入学定員が増加していることと、定員オーバーが375名あったことによる(表1)。これに対して、各大学の講座数すなわち講座当たりの教員数はとくに増加したわけではない。新設校においてはむしろ減少している大学さえあるので、教員1人当たりの学生数はやはり50%近く増加していると思われる。すなわち教育密度の低下は避けられない。

学生数の急増は必然的に質の低下を招来するし、(教員数/学生数)比の低下は教育密度の低下を招きやすい。さらに最近の医学の急速な発展と情報量の増加は、従来の放任主義的な医科大学のカリキュラムに大幅な改革もしくは修正をもたらさずにはおかない強い圧力として作用しつつある。以下はすべて全国医学部長病院長会議編「昭和54年度医学教育カリキュラムの現状」からの資料による。

1. カリキュラム改革の現状

1) カリキュラム改革を行った大学

医科大学75校(79校中、山梨、福井、香川、防衛を除く)のうち最近大幅なカリキュラム変更を行った大学は、下記のとおりで、国立13校、公立2校、私立16校、合計31校に及んでいる。

(国立)

昭和52年度の4年生から		鹿児島大
53	3	熊本大、京都大
52	2	長崎大、東北大
51	2	徳島大
53	4	岡山大、旭川医大
48	4	鳥取大
53	2	三重大
49	3	信州大
45	3	東京大
52	5	秋田大

(公立)

54	1	札幌医大
54	3	名古屋市大

(私立)

昭和54年度の5年生から		岩手医大、聖マリアンナ
53	5	日本大
45	1	日本医大
51	1	東京医大、久留米大
46	1	東京女子医大
54	3	慈恵会医大
47	5	昭和医大
48	1	順天堂大

54	1	杏林大、兵庫医大
53	1	名保大
49	3	川崎医大
53	3	福岡大
54	1	産業医大

もちろん最近新設された大学は文字どおり、新カリキュラムを実施しているわけであるから、半数以上の大学で新しい試みが実施されていることになる。

2) カリキュラム改革を計画中の大学

近い将来に大幅なカリキュラム変更を行う予定のある大学は、下記のとおりで、国立8校、公立3校、私立8校、合計19校である。

(国立)

昭和56年度の1学年から		新潟大
58	1	岐阜大
無	記入	神戸大
検	討中	広島大
56	3	山口大
56	2	愛媛大
54.3~55	より全面実施	長崎大
55	専1	鹿児島大

(公立)

55	1	予定	奈良県医大
55	2		名古屋市大
		時期未定、検討中	福島県医大

(私立)

未	定	福岡大
昭和57年度の1学年から		兵庫医大
55	3	近畿大
55	1	金沢医大
未	定	慶応大
未	定	東邦大
55	3	埼玉医大
55	1 & 4	自治医大

3) カリキュラム立案機関

カリキュラム立案機関は表2に示すとおり、教務委員会または教育委員会がもっとも多く、カリキュラム委員会という名の専門委員会を有する大学も25校ある。教授以外の助教授、講師も参加するのが大部分である(表2B)。しかしカリキュラム立案に学生の参加を認めている大学は75校中19校と比較的少ない(表2C)。

2. カリキュラム改革の方向

1) 6年一貫教育

従来の医科大学は一般教育課程2年、専門教育課程4

表 2 カリキュラム立案

A. カリキュラム立案機関は

	国	公	私	計
教育委員会	5	2	4	11
教務委員会	13	2	13	28
カリキュラム委員会	4	3	7	14
教務委員会とカリキュラム委員会	6	0	1	7
教育委員会とカリキュラム委員会	0	0	2	2
教務厚生協議会	1	0	0	1
学務委員会	2	0	1	3
教務学生委員会とカリキュラム委員会	1	0	0	1
医学教育研究委員会とカリキュラム委員会	1	0	0	1
教育企画調整室	1	0	0	1
教育体制委員会	1	0	0	1
教務委員会と拡大教務委員会	1	0	0	1
医学教育検討委員会	1	0	0	1
教育計画委員会	1	0	0	1
学生部委員会	0	1	0	1
無回答	0	0	1	1
計	38	8	29	75

B. 教授以外の教員のカリキュラム立案への関与は

	国	公	私	計
あ る	29	8	23	60
な い	9	0	5	14
未 定	0	0	1	1
計	38	8	29	75

C. 学生カリキュラム立案への関与は

	国	公	私	計
あ る	13	1	5	19
な い	23	6	21	50
学生の意見は聞く	1	1	2	4
未 定	0	0	1	1
無 回 答	1	0	0	1
計	38	8	29	75

年の完全横割型カリキュラムを採用していたが、最近では両課程を合わせて6年一貫制をとる大学もある。また両者の折衷型ともいべき、くさび型をとる大学もある。すなわち、制度上は横割型をとっているが、実質的には一般教育科目の一部は3年次以後に行われ、専門教育科目の一部は1年次または2年次に行われている。表3Aでみると、6年一貫の大学が32校と多くなっているが、もちろんこれらの大学の中には、制度的にはまだ横割型であるが、カリキュラム上6年をまとめた1つのものとして扱っているというところもある。さらに将来6年一貫教育にしたい大学が7校、くさび型にしたい大学も7校あるから、将来とも完全横割型でよいと考えている大学は12校しかないことになる。つまり、一般教育課程を単なる一般市民教育とするのではなく、“医師としての教養”という形にしたい意向が強く表れている。

横割型を6年一貫型にもっていくためには、まず教授会が一般と専門を組み合わせた1つのものにならなければならない。その点表3Cから見ると、つねに合同で行っている大学はまだ33校しかないので、制度的な6年一貫型にしていくにはかなり困難がある。むしろ制度は従来のままとし、カリキュラムの上だけで6年間を1つのものとして計画する大学が今後大多数を占めるのであろう。

2) 新しい試み

従来の科目別カリキュラムに対して、統合カリキュラムを採用する大学が増えつつある(表4A)。もちろん科目別カリキュラムと統合カリキュラムのいずれがよいかの結論は出ていないし、極端なものから両者の中間のような、一部のみ統合といったいろいろな型があるので、各大学がその状況に応じて模索しつつあるというのが現状である。

臨床実習におけるPOS(problem oriented system)を採用している大学も増えつつあるが(表4B)、昭和52年の調査と比べてその増え方はきわめて鈍い。

従来の科目と違った、新しい分野についての授業は、表4Cに示すように、医学概論、医用電子工学、臨床病理学、臨床薬理学などが目立ち、免疫学、救急医学、医史学などもかなり行われている。

3. カリキュラムの現状

1) 教育目標

医学部の一般教授目標(General Instructional Objectives, GIO)を明示している大学は国立2校(筑波、浜松)、公立1校(札幌)、私立4校(順天堂、聖マリ、福岡、久留米)の合計7校にすぎない。

ほとんどすべての大学は「教育要項」、「学習指針」または「教科案内」といったパンフレットを持っており、それに大まかな教育方針や学習上の注意などを掲載している。これにはまた多くの大学で各科目の教授目標も記されている(表5)。しかしたいてい一般的な表現に留まり、具体的な個別行動目標(Specific Behavioral Objectives, SBO)までを明示している大学はまだきわめて少ない。

2) 教育機器

もっともよく利用されている機器としては、スライドプロジェクター、シャウカステンのほか、顕微鏡投影機、オーバーヘッドプロジェクター、ビデオ、映画などがあげられる。

つぎに利用頻度の高いものは、エプディアスコープ、L.L.、テープスライドなどである。レスポンスアナライザー、各種シミュレーター、CAIなどはまだそれほど普及していない。

3) 教育評価

進級をチェックする学年は、表6に示すように、学年制をとる大学が半数に及んでいる。その他は2年ごとで、教養修了時、基礎医学修了時の2回で、あと卒業試験になる。

評価の方法としては、表7Aに示すように、出欠をとる大学が半数で、その他も教員によってはとっており、まったくとらない大学は1校にすぎない。試験方法(表7B)は論述式だけでなく多肢選択式(MCQ)や口頭も普及している。評価の対象(表7C)は知識以外に技能や態度を評価する大学が半数ある。再試験は一般に行われており(表7D)、成績は大部分の大学で点数制で記録されている(表7E)。

とくに実習の評価については各校まちまちであるが、基礎実習についてみると(表8)、評価を行っていない大学は1つもない。評価対象も知識だけでなく技能、態度も含まれており、方法も出欠、レポート、試験と多彩であることがわかる。

臨床実習については(表9)、評価をまったく行っていない大学が3校ある。行っている大学については、知識のほか、技能、態度を対象とし、出欠、レポート、試験のほかチェックリストによる評価が行われている。

卒業試験を行わないのは高知、慶応の2校のみである(表10)。卒業試験は各大学ともかなりの長期間をあてており、筆答と口頭の両試験を課すなど、慎重に行われている。時期としては6年の12月～3月がもっとも多く、期間としては約8週を費すものももっとも多い(表10)。

4) 臨床実習

多くの大学で5～6年次に41～46週に及ぶ臨床実習が組み込まれている(表11A, B)。大学によっては60～70週, すなわち約2年にわたる実習を組んでいるところもある。1グループ当たりの学生数は5～7人(表11C)で, 内科や外科は数週回るが, その他の科は1～2週ずつしか回れない。臨床実習のための手引書は多くの大学で用意されている(表11D)。

ポリクリの形を残している大学はまだ非常に多く, 56校に及んでいる(表12A)。臨床実習期間中, クラスにまともな講義やCPCがある程度含まれている大学が多く, 実習中まったくそういう講義が行われないのは4校にすぎない(表12B)。また大学病院だけでなく, 臨床実習に学外の種々の病院を利用する大学が非常に多

い(表12C)。

5) ストレート国試合格率

昭和48年度の全国医進入学人数は6,900名であったが, このうち6年で学部を卒業した者は5,220名(76%)であった。そしてまたこのうちストレートで第67回国家試験に合格した者の数は4,617名であった。すなわちこの卒業生の合格率は88%であり, 医進入学以来のストレート合格率は66.9%であった(表13)。

6) 授業時間数

6年間の総授業時間数は6,500～7,300時間であるが(表14), このうち専門課程だけの時間数は3～6年次の時間数と考えられるが, これは4,500～5,100時間の範囲にある。しかし最近の6年一貫ないくさび型カリキュラムでは2年までと3年以後が明確に分割されているわ

表3 一般教育課程と専門教育課程との関係

A. 現 状

	国	公	私	計
6年一貫教育	10	3	19	32
くさび型	8	1	7	16
完全横割り型	19	4	3	26
くさび型と完全横割り型	1*	0	0	1
計	38	8	29	75

* 試行的に両型併用

B. 将 来

	国	公	私	計
6年一貫型にしたい	4	0	3	7
くさび型にしたい	5	0	2	7
検討中	4	1	1	6
変更予定なし	25	7	23	55
計	38	8	29	75

C. 教授会は教養と専門と一緒か別か

	国	公	私	計
全 全 別	28	4	7	39
常に合同で	9	4	20	33
時々合同で	0	0	2	2
無 回 答	1	0	0	1
計	38	8	29	75

表 4 新しい試み

A. 細胞・組織レベル, または臓器系別の統合カリキュラム

	国	公	私	計
実施している	10	0	8	18
実施していない	25	5	13	43
立案中	1	2	5	8
一部している	2	0	2	4
無回答	0	1	1	2

B. 臨床実習における POS の利用

	国	公	私	計
多くの学科で	9	0	5	14
少数の学科で	9	3	13	25
利用されていない	12	5	8	25
実習には利用されていないが 講義にはとり入れている	3	0	2	5
使用予定	2	0	0	2
無回答(未定)	3	0	1	4

C. 特殊科目の授業

	国	公	私	計
医学概論	23	6	24	53
医学倫理	0	0	0	0
医史学	5	3	11	19
行動科学	2	0	4	6
生態学	4	0	4	8
医用(電子)工学	14	1	15	30
分子生物学	5	0	6	11
臨床薬理学	15	1	10	26
臨床病理学	9	3	18	30
免疫学	11	1	11	23
救急医学	8	1	8	17
地域包括医療	2	0	1	3
プライマリー・ケア	0	0	1	1
リハビリテーション	9	1	7	17

表 5 各科目またはコースの教授目標の明示

	国	公	私	計
大部分の科目で示されている	23	8	25	56
半分ほどの科目で示されている	2	0	1	3
少数の科目で示されている	7	0	1	8
まったく示されていない	3	0	0	3
立案中	1	0	1	2
無回答	2	0	1	3

表 6 進級をチェックする学年

	国	公	私	計
毎学年	7	1	26	34
教養修了時のみ	1	0	0	1
教養及び基礎医学修了時	15	5	1	21
卒業まで関門なし	1	0	0	1
その他				
教養修了時及び専門課程は毎学年	4	0	1	5
教養修了時及び 3年, 4年修了時	2	0	0	2
基礎医学開始前と臨床医学開始前	1	0	0	1
教養修了時と 6 年次進級の際	1	0	0	1
教養修了時と臨床実習第 2 期前卒業試験前	1	0	0	1
教養及び基礎医学修了時と 5 年修了時	1	0	0	1
教養及び基礎医学修了時と 5 年末臨床実習前	1	0	0	1
教養及び 5 学年目末	1	0	0	1
教養修了時と専門 1 年, 2 年, 4 年	1	0	0	1
1, 2 年目, 3, 4 年目	1	0	0	1
医進修了時及び専門課程 1, 2 年	0	1	0	1
教養の 1 年から 2 年及び教養及び 4 年修了時	0	1	0	1
1, 3 学年末	0	0	1	1

公立, 名市大昭和54年度専1より適用. それ以前は, 卒業まで関門なし

けではないので, 正確な時間数はなかなかつかみにくくなっている. 正確には各校についての資料から, 時間割のうえで時間数を計算するほかない.

授業のうち実習の占める割合は表15に示すように, 基礎医学で40%, 臨床基礎医学で30%, 社会医学で30%, 臨床医学で40%前後である.

4. 学生数

表16に, 昭和54年4月現在における, 各学年別の学生数, 留年者数, 休学者数を国公立別, および男女別で示す. 総学生数は49,294名で, 国立23,746名, 公立3,962名, 私立21,586名である. 昭和52年度の値(44,772名)と比べると4,522名の増である. 女子学生数は6,166

名(12.5%)であるが, 国立が8.9%, 公立が12.9%, 私立が16.4%となっている. この割合は昭和52年度の値(12%)に比べて0.5%増である. また留年者の割合は6.1%であるが, 昭和52年度の値(5.5%)と比べると増加している.

学生のうち奨学金を受けている者, 外国人学生などの数を表17に示す.

5. 教員数

表18に常勤の教員数を示す. 教養の教員については, 単科医大と総合大学で大きな違いがある. 専門課程については, 私立大学が比較的教員数に恵まれていることがわかる.

表 7 評価法

A. 出欠

	国	公	私	計
とる	11	5	18	34
とらない	1	0	0	1
教員によりまちまち	23	2	8	33
実習はとり講義は教員によりまちまち	3	1	3	7

B. 試験の方法は

	国	公	私	計
論述式	37	8	28	73
多肢選択式	32	7	29	68
口頭	36	8	25	69
実地試験	30	5	18	53

C. 評価の対象

	国	公	私	計
技能	25	2	13	40
態度	17	3	14	34
無回答	12	5	14	31

D. 再試験は

	国	公	私	計
一般に行う	33	8	28	69
原則として行わない	5	0	1	6

E. 成績記録法

	国	公	私	計
点数制	25	7	20	52
合否2段階制	0	0	0	0
数段階制 (A, B, C, Dなど)	6	0	6	12
その他				
専門は点数, 教養は数段階	2	1	0	3
点数と数段階	3	0	3	6
合否2段と数段階	2	0	0	2

表 8 基礎医学実習の評価

	国	公	私	計
行っていない	0	0	0	0
行っている（多くの学科で）	36	8	29	73
知識	32	8	29	69
技能	26	7	26	59
態度	20	5	20	45
無回答	2	0	0	2
評価方法				
出席点	28	3	24	55
口頭試問	27	7	24	58
筆記試験	29	8	25	62
レポート	32	7	28	67
その他				
平常の学習態度	1	0	0	1
講座により異なる	1	1	0	2
無回答	3	0	0	3

表 9 臨床実習の評価

	国	公	私	計
行っていない	1	1	1	3
行っている（多くの学科で）	33	7	27	67
知識	30	6	27	63
問題解決力	27	6	25	58
技能	23	3	19	45
態度	25	3	26	54
その他				
出席	1	0	1	2
全般的評価	1	0	0	1
形成評価	1	0	0	1
無回答	4	0	1	5
評価方法				
出席点	31	4	24	59
口頭試問	29	5	27	61
筆記試験	17	3	18	38
レポート	31	6	25	62
チェックリスト	9	1	3	13
その他	1	0	0	1
無回答	5	0	2	7

表 10 卒業試験

A. 時期

	国	公	私	計
8～9月—1～3月	2	0	3	5
10月—12～2月	1	0	4	5
11月—1～2月	6	3	6	15
12月—1～3月	15	2	7	24
1月—2～3月	8	1	7	16
2月—3月	0	1	0	1
未定	5	1	1	7
計	37	8	28	73

注：国立1校（高知）および私立1校（慶応）は卒業試験を行わない。

B. 期間

	国	公	私	計
18週	0	0	1	1
17週	1	0	0	1
16週	2	0	0	2
14週	1	1	1	3
13週	2	0	1	3
12週	1	0	1	2
11週	3	0	1	4
10週	3	1	2	6
9週	1	1	2	4
8週	8	0	4	12
7週	2	2	1	5
6週	2	0	4	6
5週	0	1	2	3
3週	2	1	2	5
未定	5	1	1	7
無回答	4	0	5	9
計	37	8	28	73

表 11 臨床実習（その1）

A. 学 年

	国	公	私	計
4～6年	3	0	3	6
5～6年	30	8	22	60
5年のみ	0	0	1	1
6年のみ	3	0	2	5
検討中	2	0	1	3

B. 週 数

	国	公	私
平均週数	45.1 (35校)	43.5 (8校)	41.1 (28校)
最小週数～最大週数	17～71	32～62	28～70

C. 臨床実習1グループの学生数

	国	公	私
学生数（平均）	6.7 (36校)	5.3 (8校)	6.6 (28校)

D. 臨床実習の手引書

	国	公	私	計
あ る	20	3	23	46
な い	11	2	3	16
無回答	1	3	1	5
全科ではないがある	1	0	1	2
検討中	5	0	1	6

表 12 臨床実習（その2）

A. 時間割の上でポリクリという特別の時間をとっているか

	国	公	私	計
いない	4	1	9	14
いる→	30	7	19	56
少数の学科で	4	0	3	7
多数の学科で	24	7	13	44
全科目で	0	0	1	1
無回答	2	0	2	4
検討中	4	0	1	5

B. 臨床実習は講義と併行して実施しているか（講義とは臨床講義，総合講義，CPC その他を含む）

	国	公	私	計
1週通して実習のみ	2	0	2	4
毎日一定時間の講義がある	18	7	13	38
ある曜日を限って講義がある	10	1	13	24
6年は1週通して～	1	0	0	1
5年は毎日一定～				
6年はある曜日を～	2	0	0	2
5年は毎日一定～				
学科により異なる	2	0	0	2
検討中	3	0	1	4
1週あたりの合計実習時間（平均）	30.9（28校）	21.4（5校）	31.1（23校）	

C. 臨床実習に用いる大学病院以外の施設

	国	公	私	計
ない	7	2	14	23
ある	31	6	15	52

表 13 ストレート国試合格者数

昭和48年度の教養（医進）課程入学者のうち，昭和54年度春期医師国家試験（第67回）合格したものの数は

	国立（29校）	公立（8校）	私立（26校）	計（63校）
昭和48年度入学者数	3,110	596	3,194	6,900
このうち昭和54年3月に卒業した数	2,641	520	2,059	5,220
さらにこのうち第67回国家試験に合格した数	2,403	445	1,769	4,617
ストレート合格率（％）	77.3	74.7	55.4	66.9
（最低—最高％）	（54.1—90.7）	（64.6—86.4）	（30.6—90.6）	

注：国立のうち8校は無回答，1校は不明確，私立のうち3校は無回答

表 14 授業時間数

学年	1校平均の	国 立		公 立		私 立	
1 年	授業週数 (a)	37 校	30.9	8 校	30.4	29 校	31.6
	1週間の授業時間数 (b)		33.1		36.7		33.9
	年間授業時間数 (a × b)		1,021		1,109		1,071
	(最小—最多)		(600—1,333)		(720—1,364)		(660—1,442)
2 年	a	37 校	30.9	8 校	30.4	29 校	32.0
	b		30.2		36.1		34.0
	a × b		933		1,097		1,088
	(最小—最多)		(394—1,290)		(630—1,364)		(600—1,440)
3 年	a	36 校	33.7	8 校	34.1	28 校	32.5
	b		35.3		37.7		35.7
	a × b		1,190		1,286		1,160
	(最小—最多)		(930—1,365)		(1,030—1,520)		(660—1,493)
4 年	a	36 校	33.7	8 校	33.9	28 校	32.7
	b		36.1		39.0		36.0
	a × b		1,217		1,322		1,177
	(最小—最多)		(967—1,602)		(1,098—1,520)		(660—1,584)
5 年	a	35 校	34.4	8 校	35.0	28 校	32.9
	b		36.3		40.0		36.3
	a × b		1,249		1,400		1,194
	(最小—最多)		(992—1,636)		(1,036—1,636)		(660—1,584)
6 年	a	34 校	27.3	8 校	26.9	28 校	28.6
	b		35.3		40.0		37.1
	a × b		964		1,076		1,061
	(最小—最多)		(594—1,216)		(848—1,505)		(551—1,672)
総授業時間数 (6年間)			6,574		7,290		6,751
(3～6年の4年間)			4,620		5,084		4,592

表 15 授業時間数と実習の割合

	国 立			公 立			私 立		
	校数	1校平均 授業時間数	実習の%	校数	1校平均 授業時間数	実習の%	校数	1校平均 授業時間数	実習の%
教 養	37	1,802	13.7	8	2,139	11.8	29	1,707	17.5
基礎医学	38	1,037	42.5	8	1,291	43.6	27	1,132	42.1
臨床基礎医学	35	740	33.1	7	799	29.7	23	667	31.1
社会医学	36	305	28.3	8	347	32.4	26	295	30.5
臨床医学	37	2,413	39.6	8	2,794	34.6	28	2,950	40.9
その他	11	291		2	158		2	277	

表 16 学生数（昭

(1) 学生数，留年者数，休学者数

		国 立				公 立			
		校数	学生数A (男女の百分率)	留年者数B (B/A%)	休学者数C (C/A%)	校数	学生数A (男女の百分率)	留年者数B (B/A%)	休学者数C (C/A%)
1 年	計	38	4,222	18 (0.4)	7 (0.2)	8	700	14 (2.0)	3 (0.4)
	男		3,828 (90.7)	18	6		595 (85.0)	14	3
	女		394 (9.3)	0	1		105 (15.0)	0	0
2 年	計	38	4,394	290 (6.6)	17 (0.4)	8	701	39 (5.6)	2 (0.3)
	男		3,990 (90.8)	285	16		614 (87.6)	37	1
	女		404 (9.2)	5	1		87 (12.4)	2	1
3 年	計	35	3,975	145 (3.6)	8 (0.2)	8	678	15 (2.2)	0 (0)
	男		3,646 (91.7)	139	7		592 (87.3)	15	0
	女		329 (8.3)	6	1		86 (12.7)	0	0
4 年	計	35	3,865	147 (3.8)	9 (0.2)	8	649	31 (4.8)	1 (0.2)
	男		3,507 (90.7)	143	9		574 (88.4)	28	0
	女		358 (9.3)	4	0		75 (11.6)	3	1
5 年	計	33	3,652	26 (0.7)	8 (0.2)	8	647	4 (0.6)	0 (0)
	男		3,334 (91.3)	24	7		562 (86.9)	4	0
	女		318 (8.7)	2	1		85 (13.1)	0	0
6 年	計	32	3,638	168 (4.6)	20 (0.5)	8	587	10 (1.7)	2 (0.3)
	男		3,326 (91.4)	162	16		515 (87.7)	9	0
	女		312 (8.6)	6	4		72 (12.3)	1	2
合 計	計	38	23,746	794 (3.3)	69 (0.3)	8	3,962	113 (2.9)	8 (0.2)
	男		21,631 (91.1)	771 (3.6)	61 (0.3)		3,452 (87.1)	107 (3.1)	4 (0.1)
	女		2,115 (8.9)	23 (1.1)	8 (0.4)		510 (12.9)	6 (1.2)	4 (0.8)

和54年4月現在)

私 立				総 計			
校数	学生数A (男女の百分率)	留年者数B (B/A%)	休学者数C (C/A%)	校数	学生数A (男女の百分率)	留年者数B (B/A%)	休学者数C (C/A%)
29	3,587	229 (6.4)	18 (0.5)	75	8,509	261 (3.1)	28 (0.3)
	2,962 (82.6)	208	12		7,385 (86.8)	240 (3.2)	21 (0.3)
	625 (17.4)	21	6		1,124 (13.2)	21 (1.9)	7 (0.6)
29	3,828	409 (10.7)	20 (0.5)	75	8,923	738 (8.3)	39 (0.4)
	3,212 (83.9)	379	17		7,816 (87.6)	701 (9.0)	34 (0.4)
	616 (16.1)	30	3		1,107 (12.4)	37 (3.3)	5 (0.5)
28	3,744	449 (12.0)	18 (0.5)	71	8,397	609 (7.3)	26 (0.3)
	3,091 (82.6)	411	16		7,329 (87.3)	565 (7.7)	23 (0.3)
	653 (17.4)	38	2		1,068 (12.7)	44 (4.1)	3 (0.3)
28	3,574	398 (11.1)	14 (0.4)	71	8,088	576 (7.1)	24 (0.3)
	2,995 (83.8)	374	12		7,076 (87.5)	545 (7.7)	21 (0.3)
	579 (16.2)	24	2		1,012 (12.5)	31 (3.1)	3 (0.3)
28	3,313	229 (6.9)	13 (0.4)	69	7,612	259 (3.4)	21 (0.3)
	2,773 (83.7)	203	9		6,669 (87.6)	231 (3.5)	16 (0.2)
	540 (16.3)	26	4		943 (12.4)	28 (3.0)	5 (0.5)
28	3,540	377 (10.6)	9 (0.3)	68	7,765	555 (7.1)	31 (0.4)
	3,012 (85.1)	341	8		6,853 (88.3)	512 (7.5)	24 (0.4)
	528 (14.9)	36	1		912 (11.7)	43 (4.7)	7 (0.8)
29	21,586	2,091 (9.7)	92 (0.4)	75	49,294	2,998 (6.1)	169 (0.3)
	18,045 (83.6)	1,916 (10.6)	74 (0.4)		43,128 (87.5)	2,794 (6.5)	139 (0.3)
	3,541 (16.4)	175 (4.9)	18 (0.5)		6,166 (12.5)	204 (3.3)	30 (0.5)

表 17 学生数と奨学金を受けている学生数,

		国 立				公 立			
		校数	学生数A	奨学金B (B/A%)	外国人C (C/A%)	校数	学生数A	奨学金B (B/A%)	外国人C (C/A%)
1 年	計	38	4,222	661 (15.7)	41 (1.0)	8	700	72 (10.3)	6 (0.9)
	男		3,828	613	39		595	65	6
	女		394	48	2		105	7	0
2 年	計	38	4,394	932 (21.2)	45 (1.0)	8	701	121 (17.3)	13 (1.9)
	男		3,990	854	41		614	113	13
	女		404	78	4		87	8	0
3 年	計	35	3,975	982 (24.7)	38 (1.0)	8	678	121 (17.8)	10 (1.5)
	男		3,646	921	38		592	113	8
	女		329	61	0		86	8	2
4 年	計	35	3,865	1,098 (28.4)	33 (0.9)	8	649	108 (16.6)	13 (2.0)
	男		3,507	1,014	31		574	98	13
	女		358	84	2		75	10	0
5 年	計	33	3,652	1,023 (28.0)	36 (1.0)	8	647	118 (18.2)	9 (1.4)
	男		3,334	951	36		562	102	7
	女		318	72	0		85	16	2
6 年	計	32	3,638	1,048 (28.8)	50 (1.4)	8	587	116 (19.8)	17 (2.9)
	男		3,326	975	46		515	103	16
	女		312	73	4		72	13	1
合 計	計	38	23,746	5,744 (24.2)	243 (1.0)	8	3,962	656 (16.6)	68 (1.7)
	男		21,631	5,328 (24.6)	231 (1.1)		3,452	594 (17.2)	63 (1.8)
	女		2,115	416 (19.7)	12 (0.6)		510	62 (12.2)	5 (1.0)

外国人学生数（昭和54年4月現在）

私 立				総 計			
校数	学生数A	奨学金B (B/A%)	外国人C (C/A%)	校数	学生数A	奨学金B (B/A%)	外国人C (C/A%)
29	3,587	137 (3.8)	46 (1.3)	75	8,509	870 (10.2)	93 (1.1)
	2,962	118	45		7,385	796 (10.8)	90 (1.2)
	625	19	1		1,124	74 (6.6)	3 (0.3)
29	3,828	150 (3.9)	48 (1.3)	75	8,923	1,203 (13.5)	106 (1.2)
	3,212	131	46		7,816	1,098 (14.0)	100 (1.3)
	616	19	2		1,107	105 (9.5)	6 (0.5)
28	3,744	122 (3.3)	49 (1.3)	71	8,397	1,225 (14.6)	97 (1.2)
	3,091	115	46		7,329	1,149 (15.7)	92 (1.3)
	653	7	3		1,068	76 (7.1)	5 (0.5)
28	3,574	118 (3.3)	52 (1.5)	71	8,088	1,324 (16.4)	98 (1.2)
	2,995	109	50		7,076	1,221 (17.3)	94 (1.3)
	579	9	2		1,012	103 (10.2)	4 (0.4)
28	3,313	120 (3.6)	39 (1.2)	69	7,612	1,261 (16.6)	84 (1.1)
	2,773	104	39		6,669	1,157 (17.3)	82 (1.2)
	540	16	0		943	104 (11.0)	2 (0.2)
28	3,540	128 (3.6)	34 (1.0)	68	7,765	1,292 (16.6)	101 (1.3)
	3,012	115	28		6,853	1,193 (17.4)	90 (1.3)
	528	13	6		912	99 (10.9)	11 (1.2)
29	21,586	775 (3.6)	268 (1.2)	75	49,294	7,175 (14.6)	579 (1.2)
	18,045	692 (3.8)	254 (1.4)		43,128	6,614 (15.3)	548 (1.3)
	3,541	83 (2.3)	14 (0.4)		6,166	561 (9.1)	31 (0.5)

表 18 常勤教

	職	教 養 (A)		基 礎 (B)	
		総数	1 校平均 (最少—最多)	総数	1 校平均 (最少—最多)
国 立 38校	教 授	950	28.8 (0—139)	534	14.1 (7—25)
	助 授	976	29.6 (0—147)	374	9.8 (4—17)
	講 師	244	7.4 (0— 31)	237	6.2 (0—33)
	助 手	241	7.3 (0— 96)	1,046	27.5 (1—53)
	合 計	2,411	73.1 (0—384)	2,191	57.7 (20—93)
公 立 8 校	教 授	80	10.0 (4—21)	101	12.6 (9—16)
	助 授	56	7.0 (0—18)	89	11.1 (6—16)
	講 師	22	2.8 (1— 5)	76	9.5 (2—13)
	助 手	34	4.3 (0— 8)	244	30.5 (22—42)
	合 計	192	24.0 (13—50)	510	63.8 (41—81)
私 立 29校	教 授	183	6.5 (1—13)	453	15.6 (11—21)
	助 授	121	4.3 (0—10)	304	10.5 (4—17)
	講 師	146	5.2 (2—10)	279	9.6 (1—23)
	助 手	135	4.8 (0—13)	1,046	36.1 (14—65)
	合 計	585	20.9 (11—32)	2,082	71.8 (49—111)
計 75校	教 授	1,213	17.6	1,088	14.5
	助 授	1,153	16.7	767	10.2
	講 師	412	6.0	592	7.9
	助 手	410	5.9	2,336	31.1
	合 計	3,188	46.2	4,783	63.8

注 1. 教養については、国立5校（北大、新潟、神戸、阪大、長崎）および私立1校（東海）が無回答のため、国立33校、公立8校、私立28校の集計である

2. 付属施設を有する大学は、国立21校、公立6校、私立6校であるが、1校平均値は全校数で平均した値である

* * *

員数

臨床 (C)		付属施設 (D)		専門課程 (B+C+D)	
総数	1校平均 (最小—最多)	総数	1校平均 (最小—最多)	総数	1校平均
642	16.9 (6—26)	87	2.3 (0—11)	1,263	33.2
648	17.1 (5—47)	87	2.3 (0—11)	1,109	29.2
1,288	33.9 (0—112)	31	0.8 (0—4)	1,556	40.9
3,687	97.0 (1—321)	183	4.8 (0—21)	4,916	129.4
6,265	164.9 (13—486)	388	10.2 (1—40)	8,844	232.7
131	16.4 (13—20)	7	0.9 (0—3)	239	29.9
132	16.5 (12—26)	11	1.4 (0—4)	232	29.0
196	24.5 (15—41)	14	1.8 (0—5)	286	35.8
815	101.9 (55—124)	36	4.5 (1—11)	1,095	136.9
1,274	159.3 (113—182)	68	8.5 (3—19)	1,852	231.5
739	25.5 (15—52)	11	0.4 (1—4)	1,203	41.5
797	27.5 (14—59)	10	0.3 (0—4)	1,111	38.3
1,327	45.8 (9—81)	20	0.7 (0—6)	1,626	56.1
4,314	148.8 (28—400)	63	2.2 (0—25)	5,423	187.0
7,177	247.5 (88—559)	104	3.6 (1—34)	9,363	322.9
1,512	20.2	105	1.4	2,705	36.1
1,577	21.0	108	1.4	2,453	32.7
2,811	37.5	65	0.9	3,468	46.2
8,816	117.5	282	3.8	11,434	152.5
14,716	196.2	560	7.5	20,059	267.5

* * *